

被災から復興までの玄界島行政視察

防災対策特別委員会 委員長 尾 元 武

さる8月26～27日、委員全員参加のもと平成17年3月20日に発生した福岡県西方沖地震で壊滅的被害を受けた玄界島の被害状況と復興の取り組みについて視察した。

福岡県中心部から北西約20km沖に位置し、博多湾と玄界灘に浮かぶ周囲4km、面積1.14の島である。市内での観測で震度6弱(マグニチュード7.0)による人的被害は少なかったものの、全家屋の大半が全半壊し、700名の全島民は仮設住宅での避難生活を余儀なくする事と

なったそうである。

しかしながら集落再生にあたっては、島民の意向を踏まえながら小規模住宅地区改良事業という事業手法を実施し、合わせて漁港施設、小中学校の災害復旧事業を一体的に実施。地域産業・コミュニティ再生を連動させるため、島民との共同により復興プランを策定。そして約3年という非常に短い期間でみごとに復興した。そこには島民の声を一つにするために、住民の深い理解と協力はさることながら、陣頭指揮を執ったリーダーの存



在も大きかったようだ。被災前の狭い道路や石積みの上に建っていた斜面集落部は見事に姿を変え、島の地形を有効に活用した計画的町並は、一言で申せば圧

巻であった。市営住宅のエレベーターを活用した上下移動支援施設、そして島の中心部の「にぎわいゾーン」に設けられた憩いの家では、余暇を過ごす高齢者の方の笑顔が印象的であった。

翌日は、福岡市防災センターを視察。風速30mの風、震度7の揺れ、実際の火災のように煙が充満した迷路を通りぬける避難等の模擬体験を受ける中、防災に関する知識やその対処法などを学んだ。



(復興した玄界島の視察)